

古関裕而・金子夫妻を

朝ドラの主人公に

実現に向けて署名活動を開始



1964年の東京オリンピック開会式の入場行進曲「オリンピック・マーチ」の作曲者は福島市名誉市民の故・古関裕而氏で、その妻故・金子氏は愛知県豊橋市出身です。福島市と豊橋市は2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催に合わせて、古関裕而氏の作曲活動を支えた妻・金子氏をヒロインにした連続テレビ小説(通称「朝ドラ」)の実現に向けた取り組みを進めています。

NHK朝の連続テレビ小説 実現に向けて

古関裕而氏は生涯約5千曲を作曲した偉大な作曲家です。作曲活動を支えた妻・金子氏の個性豊かな姿と、古関家のエピソードや、1964年東京オリンピック入場行進曲「オリンピック・マーチ」作曲までの姿を描く「朝ドラ」の2020年放映を目指しています。実現すれば、古関裕而氏の功績・古関メロディーとともにふるさと福島を広く発信する絶好の機会となります。



▲NHKへの要望活動。左から豊橋市長、福島市長、NHK安齋理事

さらなる取り組みとして、10月26日に福島商工会議所・市観光コンベンション協会などによる「古関裕而・金子夫妻NHK朝の連続テレビ小説実現協議会(以下「協議会」)を設立しました。「朝ドラ」放映のための署名活動やさまざまなイベントの展開を官民連携で進めています。

署名活動を開始 皆さんの協力をお願いします

10月29日に福島駅前通りで福島商工会議所青年部主催のイベント「マーチングthonふくしま2016 古関裕而音楽フェス」で協議会による署名活動の開始を宣言し、セレモニーが行われました。

※署名用紙は左記の場所(11月11日現在)に設置しています。今後、公共施設などに設置場所を増やす予定です。

署名用紙設置場所

共通 年末年始期間(12月29日～1月3日)は休み

・福島商工会議所 (三河南町1-20)

コラッセふくしま 8階 午前8時30分～午後5時15分

※土・日曜日、祝日を除く。

・福島市役所文化課 (五老内町3-1 8階)

午前8時30分～午後5時15分

※土・日曜日、祝日を除く。

・福島市古関裕而記念館 午前9時～午後4時30分

(福島市入江町1-1)

・福島市音楽堂 午前9時～午後9時

(福島市入江町1-1)

署名は協議会を通してNHKに届けられます。



▲10月30日に開催した古関裕而記念音楽祭で多くの方に署名していただきました



▲協議会メンバーと応援に駆け付けた豊橋市職員(前列右側法被姿)で署名活動開始を力強く宣言しました

古関裕而の プロフィール



明治42年8月11日、福島市大町に生まれました。本名は勇治。小学生の頃から作曲を始めるほどの音楽好きで、県立福島商業学校時代には山田耕筰の曲に多大な影響を受けながら作曲に熱中しました。

卒業後、川俣銀行(現東邦銀行川俣支店)に勤務。昭和4年、ロンドンのチェスター楽譜出版社が募集した作曲コンクールにオーケストラ作品「舞踏組曲」竹取物語」で応募し入選を果たしました。



▲若かりしころの古関裕而(左)と金子(右)

た「船頭可愛や」「露営の歌」「暁に祈る」などの歴史的的作品や、戦後の荒廃した中では「栄冠は君に輝く」「長崎の鐘」など、未来へ希望を抱かせる作品を発表。NHKラジオドラマ「とんがり帽子」さくらんぼ大将「君の名は」などの主題歌も手掛けました。東京オリンピックの開会式を華々しく飾った「オリンピック・マーチ」は、開催地を象徴する「君が代」の一節を最後に入られており、古関裕而自身も会心の作と語る名曲です。

スポーツ・ラジオドラマ・歌謡曲・演劇・校歌・社歌など作品は多岐にわたり、阪神タイガースの応援歌「六甲おろし」、巨人軍の歌「闘魂こめて」、福島の夏の風物詩「わらじ音頭」も古関裕而の作品です。

古関裕而の妻・金子について



金子の生い立ち

古関(旧姓・内山)金子は、明治45年3月6日に内山安蔵・みつこの三女として愛知県豊橋市に生まれました。金子は小さいときから音楽が好きで、高校を卒業するころから音楽学校への進学を夢見て、名古屋の知人宅で雑誌作りの手伝いをしていました。

古関裕而との出会い

昭和5年1月23日の福島民友新聞に、古関裕而が作曲した「舞踊組曲」竹取物語」が、ロンドンのチェスター楽譜出版社の作曲コンクールで2等に入選したとの記事が掲載されました。このことが遠く離れた金子のもとにも届き、感激した金子は裕而へ「楽譜を送ってほしい」と手紙

声楽家を目指して

金子は学生時代からオペラ歌手を目指しており、結婚後も帝国音楽学校で声楽を学びました。戦後には、裕而作曲の放送オペラ「朱金昭(チュウチンショウ)」などに出演。金子がNHKのスタジオで発声のために第一声を放ったとき、オーケストラの団員から歓声が上がったとのエピソードからも、その才能は抜きん出ていたものと考えられます。

芸術家の一面

金子は歌のほかにも、絵画や詩の創作などに意欲的に取り組み、芸術全般を広く愛しました。多くの人々の心を癒やし続けた古関メロディーの創作の影には、裕而の作曲活動の意義を誰よりも理解し支えた妻・金子の存在がありました。

※出典：「鐘よ鳴り響け」古関裕而自伝「古関裕而著(日本図書センター刊)」「古関裕而物語 齋藤秀隆著(歴史春秋社刊)」「喜多川(KITASANO)ブログ「今日は古関金子の命日」(http://www.usuyukisou.com/kitsan/index.php/blogs/archives/30)